

令和元年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる
施策の目標	さまざまな媒体からすみだの魅力が発信され、これまで以上に国内外から多くの人々が「国際観光都市すみだ」にあこがれ、訪れています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	墨田区観光協会のホームページ年間訪問者数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目 標	323,985				335,000					350,000
実績										
指 標 名	区内を訪れる観光客数（観光関連施設入込客数及びイベント入込客数）									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目 標	9,097,423				9,800,000					10,000,000
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。	H28	29,007
	H29	30,975
	H30	28,977

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	例年90万人を超える観覧客があり、当区のシティプロモーションのために欠かせない事業となっている。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
2020年の東京オリンピックを控え、墨田区の魅力のみならず、日本の和の魅力を発信できるため。	
【今後の具体的な方針】	
警備、交通整理対策などの安全確保の方策と、より魅力的な花火大会の企画を、都・関係区、関係機関と調整、検討していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	隅田川花火大会事業	28,977	3	28,980		950,000	現状維持
						874,000	平成30年度
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

施 策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	隅田川花火大会事業					1
目 的	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供する。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課文化行事担当
						5608-6180
対 象 者	都区民のほか国内外の来訪者					
根拠法令 関連計画	隅田川花火大会実行委員会会則					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤職員 4人(当番時)、3人(裏番時)	
事業内容	昭和53年に隅田川花火大会として復活した伝統の花火大会である。例年、東京都、墨田区、台東区、中央区、江東区、荒川区の五区で構成する連絡協議会と、各区町会長、関係事業者、行政職員で構成する実行委員会において、実施日や実施体制等を確認、決定しながら開催している。 なお、町会関係者やボーイスカウト、都区職員による自主警備委員のほか、警視庁や東京消防庁など約10,000人の協力を得て、自主警備体制を整え、安全に万全を期している。					
経 過	開始年度	昭和53年度		終了予定		
	昭和53年から開催し、以来、平成30年まで41回実施している。					
議会質問 の 状 況						
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 2019年7月27日(土)実施 荒天のため実施できない場合は翌28日(日)に延期し、両日とも実施できない場合は中止とする。 ※ 2020年は7月11日(土)に実施予定					

予算・決算額推移（千円）		2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和元年度
予算現額（事業費）		29,030	29,025	29,025	31,025	29,025	30,940
決算額（令和元年度は見込み）		28,971	29,000	29,007	30,975	28,977	30,940
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		28,971	29,000	29,007	30,975	28,977	30,940
執行率（％）		99.8%	99.9%	99.9%	99.8%	99.8%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成 2 9 年度（決算）			平成 3 0 年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	30,975	負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	28,977	負担金補助及び交付金	実行員会への補助金	30,940

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	年1回の開催				単位	回数
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		950,000	R7	目標	950,000	950,000	950,000	950,000
				実績	957,000	748,000	874,000	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、例年90万人を超える観覧客があることから、当区のシティプロモーションのためには欠かせない事業である。

課題・問題点
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。

補助金名称	隅田川花火大会実行委員会			主管課・係（担当）	
根拠法令	隅田川花火大会実行委員会会則			文化芸術振興課文化行事担当	
補助概要	隅田川花火大会実行委員会の運営経費について補助			5608-6180	
目的	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供する。				
対象	都区民のほか国内外の来訪者				
基準	区独自基準				
補助条件	隅田川花火大会実行委員会会則 第9条（経費） 実行委員会の経費は、分担金、寄付金及びその他の収入をもって充当する。				
経過	開始年度	昭和53年度	終了予定		
議会質問の状況					
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和元年7月27日（土）実施 荒天等のため実施できない場合は翌28日（日）に延期し、両日とも実施できない場合は中止とする。				

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		29,030	29,025	29,025	31,025	29,025	30,940
決算額（令和元年度は見込み）		28,971	29,000	29,007	30,975	28,977	30,878
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		28,971	29,000	29,007	30,975	28,977	30,878
執行率（％）		99.8%	99.9%	99.9%	99.8%	99.8%	99.8%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	年 1 回の開催				単 位	回数
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1		
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。						
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		950,000	R7	目標	950,000	950,000	950,000	950,000
				実績	957,000	748,000	874,000	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるため。						
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、例年90万人を超える観覧客があることから、当区のシティプロモーションのためには欠かせない事業である。						

課題・問題点	
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。	